

広島は軍都と同時に学都であった

講師 田邊 良平 (郷土史家)

平成28年7月20日(水) 18:30~20:00 受講料 500円



写真：広島の本営

明治維新以降、わが国は「富国強兵」をスローガンに、軍備の増強で国力の興隆に努めることになりました。その一つとして全国を6地域に分けて、その中心地に陸軍の鎮台を置き、国防の充実に努めてきました。中国四国地域を統括する鎮台が広島に置かれ、軍都広島がスタートしたのです。

その後、明治10年の西南戦争に始まり、27、28年の日清戦争では、広島は清国の戦場に向けての最先端基地となり、さらに明治37、38年の日露戦争では、広島の軍都としての役割は一層強まってきました。

一方、明治36年に、東京に次いで開校した広島高等師範学校によって、広島は学都としての地位を得ることになりましたが、それ以前にも地元の知識人によってユニークな学校が開校しています。「軍都と学都、戦争と平和」の両立をはかりつつ、広島は発展して来たのですが、その過程において、広島の財界人はどのように関わってきたのかを中心に紹介しましょう。

講師紹介 田邊 良平 (たなべ・りょうへい)

昭和9年11月広島市出身、金融機関に勤務。退職後、原爆以前の広島の姿を周知してもらうために、歴史・文化・風土などの紹介に務める。現在、広島の月刊誌「経済春秋」に、「広島政財界人物誌」を連載中、7月号で187回となる。加藤友三郎の銅像復元、二葉あき子の歌碑建立に関わり、目下、江戸時代から原爆以前まで続いた「二葉の里の桜並木」を復活させる活動に取り組んでおり、二葉の里歴史の散歩道のガイドにも携わっている。

※受講をご希望の方は、①お名前、②連絡先・住所をご記入のうえ下記 E-Mail もしくは FAX にてお申込みください。

コミュニティ・アカデミー上幟

TEL&FAX : 082-225-8103

E-Mail : c.a.kaminobori@outlook.jp

